



## いきいきと自分らしく年を重ねられる

### 「健康長寿のまち・京都」の実現に向けて

京都市介護ケア推進担当部長の米津好美と申します。

日頃から、京都市の高齢者保健福祉施策の推進に格別の御理解を賜りますとともに、多大な御支援をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

また、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響の中にあつて、高齢者の生活に不可欠な介護サービスを提供するため、感染拡大防止を徹底しつつ、日々大変な御尽力をいただいている介護現場の皆様方に対し、改めて心から敬意と感謝の意を表します。

さて、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据え、極めて重要な課題の一つが介護の担い手の確保であります。20年後の新たな介護現場の構築にあたり、ロボット・AI・ICT化に加え、現場における主体性や創造性、未来を展望する力がこれまで以上に求められております。団体や、NPO、地域、企業、行政機関など、あらゆる主体が協働することで社会を循環させ、新たな「当たり前」を創出する「持続可能な高齢者福祉」の構築が、国をあげての長期的な課題となっております。

そのような中、貴協議会におかれは、目指すべき中長期的な方向性を示した「VISION2025」に基づき、地域と共に歩みながら常に率先して改革に挑戦されておられます。本年4月、3年ぶりに開催された合同入職式では、新たに介護現場に入職された皆様の、初々しくも、これから介護

現場の最前線で働く決意と希望に満ちた表情が印象的で、とても心強く感じたところでありました。また、幼少期からの倫理教育・道徳教育の一翼を担うべく、年齢を重ねても「住み慣れた町で自分らしく生きること」の喜びや希望を伝える絵本「はなのちるちる」の創刊や「介護の日記念事業」、ハートメッセンジャーの活動など、介護の魅力発信に向けた様々な取組等を通じ、担い手の裾野拡大に向けて積極的に取り組んでいただいております。その一つ一つのお取組は、高齢者福祉の未来を切り拓くための社会全体を巻き込んだ大きな動きへとつながるものと確信しております。

本市では、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底する中において、京都ならではの「地域力」を最大限発揮し、地域の皆様や医療・介護をはじめとする関係機関と行政が一体となり高齢者の暮らしを支援する「京都市版地域包括ケアシステム」の構築を進めるとともに、お一人お一人が主体的に介護予防を実践される中で、地域の担い手等としていきいきと自分らしく御活躍いただける「健康長寿のまち・京都」の実現に向けて、貴協議会との緊密な連携の下、本年度も第8期京都市長寿すこやかプランに掲げる施策を着実に推進してまいります。また、介護の担い手確保に向けては、引き続き、介護の仕事の魅力や社会的役割等の発信をはじめ、より効果的な取組となるよう、貴協議会をはじめ関係団体の皆様

と連携して進めるとともに、一層の処遇改善が図られるよう引き続き国に要望してまいります。

結びに、貴協議会のみますの御発展、並びに皆様方の御健勝、御多幸を心より祈念申し上げます。



京都市介護ケア推進担当  
部長 米津 好美 氏

## INDEX

- 01 あいさつ
- 02 4/9合同入職式の取り組み紹介
- 04 絵本制作と『はたらく』活動紹介
- 06 新規施設紹介 (ふなおか)
- 07 ハートメッセンジャー紹介
- 08 食事部会から  
「高齢者施設のお食事紹介」

合同入職式がオンラインで帰ってきた!!!

# 7K3I × テキジョー

出演者

京都市長・門川 大作      3部司会：チキチキジョニー

日時：令和4年4月9日(土) 12:45~15:00  
 対象者：令和4年度入職者  
 会場：ひとまき交流館からオンライン配信

【7K3I】  
 1部 合同入職式  
 2部 絵本贈呈式  
 3部 入職者交流会

絵本贈呈式  
 ふくし × えほん

身近な誰かや自分自身の「若い」を避けることができない中、「老いていく中で、自分らしく生きること」について、こどもからおとなまで、全ての方に、この絵本を通して考えていただきたい・との思いから作成しました。



↑詳細な情報はこちらから↑



## 令和四年度 合同入職式について

令和4年4月9日(土)「令和4年度新入職員合同入職式・絵本贈呈式」を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年と一昨年の合同入職式は中止となりましたが厳しい状況のなか、「何とか入職者を歓迎したい」、「仲間がいる事を感じていただきたい」

このような想いでオンラインイベント（ZOOM）としてバーチャル空間での入職式や芸人さんを交えたオンライン交流会など、入職者の記憶に残る1日となりました。

### 第1部…合同入職式

今年度は100名の入職者が、各施設よりパソコンの画面を通して式典に参加をしました。入職式は山岸孝啓会長の挨拶から始まり、入職者へ向けて歓迎と激励、お礼の言葉を述べました。人の援助の尊さを認識するとともに感謝の気持ちを大切にする。そして市老協という大きな組織には多くの仲間がいることを認識し、決して孤立せず安心して働いてほしいという思いを伝えました。



門川大作京都市長からのご祝辞では、介護という尊い仕事に携わる全ての人に感謝の言葉をいただくと共に、市長ご自身が福祉現場にて職員さんとお話をしたエピソードより、福祉従事者の皆さんの志の高さに胸が熱くなったこと。そして超高齢社会における担い手不足という深刻な課題に、国と連携し一層の処遇改善に取り組みたい。そして社会全体で皆さんが専門性を高められる世の中を目指して頑張っていきたい。

い。というお気持ちを聞かせていただきました。



学校関係者を代表して、京都医療福祉専門学校 学校長の辻勝司先生からご祝辞を頂戴しました。これから福祉の専門職となる入職者に向けて、先生ご自身が今でも実行しておられる「1日1日努力することを忘れないこと。」今日よりも明日、今月より来月と、日々の経験のなかで努力をしたことを自分の身に付け、社会に貢献してほしいとお言葉をいただきました。



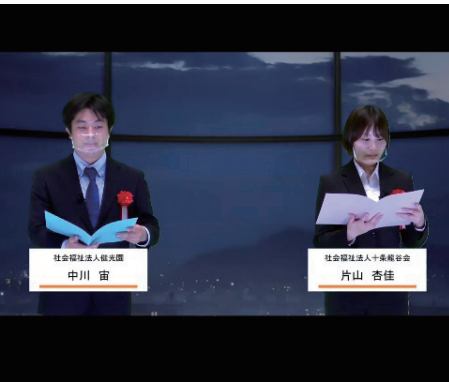
続いて入職者代表のお二人による「挨拶と決意表明」がありました。高齢者福祉の担い手として社会で活躍できることになった喜びと、誇りをもって福祉社会の発展のために全力を尽くし、日々精進していく覚悟について高らかに決意を述べられました。

ビハラー十条・片山杏佳 (写真右)

合同入職式ではオンラインではありましたが、たくさんの同じ志を持った仲間が存在を目の当たりにし、とても心強く感じました。これから福祉の専門職として活躍できるように日々頑張っていくます。

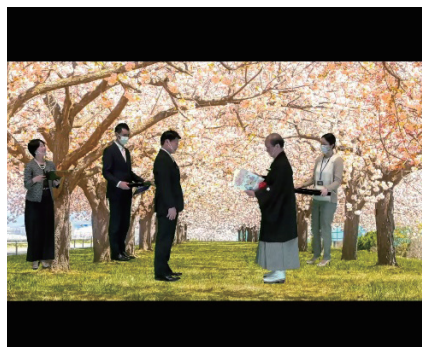
健光園・中川宙 (写真左)

合同入職式では、期待と共に不安や緊張を強く感じていましたが、同期の仕事への想いや目標を知り、福祉の専門職として共に頑張ろうと、とても励みになりました。顔を合わせる機会は少ないと思いますが、同期の存在を糧に今後も精進していきたいと思えます。



第2部・絵本贈呈式

高齢者福祉に携わる私たちが、子どもたちにも福祉に触れ考えてもらおうきつかけになることを目的に制作した絵本「はなのちるちる」が令和4年3月31日に完成しました。市内全ての幼稚園、保育園、小学校、中学校、図書館、児童館などに寄贈させていただきました。この絵本をきっかけに日常の触れ合いの中で、考える機会になればと思います。



第3部・入職者交流イベント

松竹芸能所属のお笑いコンビ、チキジョニーのお二人が新入職員の皆さんにこれからの目標や抱負、プライベートのことなどインタビューを行い、楽しい交流の時間を過ごしました。近年では所属施設に同期職員がいないことも多いですが、市老協という大きな組織にはこれだけたくさん同期がいるので、繋がりを感じていただけたと思います。

閉会 (河合副会長)

最後は河合悟副会長より閉会のご挨拶をいただき、30数年前に児童養護施設で勤められ、現在も親交がある当時の利用者さんの言葉より、「仲間の存在は大切。市老協という組織の同期として一緒に助け合い、励ましあって欲しい。私たちも応援しているので、将来には皆さんがこの場で挨拶できるように頑張ってください。」という言葉で締めくくりました。



それぞれ施設は違いますが、市老協という大きな組織の中で切磋琢磨しながら励ましあい、京都市の高齢者福祉がより質の高いものに成長できることを願っております。

(人材確保・定着委員会 始田 知大)



## 絵本プロジェクト

～「老い」や「死」とともにある「生」について考える～

市老協が2019年度に策定したVISION2025「DREAM DESIGN」には、幼少期の倫理教育、道徳教育の一翼を担っていくことを目指していることから、絵本制作プロジェクトを立ち上げました。

絵本が、児童の心の育みを促すものであること、また読み聞かせなどを通じて大人にも様々な気づきを与え得るものであることを生かし、市老協に所属する各施設で日々取り組んでいる「介護（ケア・支援）」について、新たな角度から社会への発信を試みました。

超高齢社会を生きる私たちは、身近な誰かや自分自身の「老い」を避けることはできません。

人生を振り返った時に、「わたしはわたしのようになりたい」とはつきりと思える、そのような素晴らしい人生を享受できる権利が誰にもある、というメッセージが込められています。

子どもから大人まで全ての方に、この絵本を通して考えて頂けたら幸いです。

（人材確保・定着委員会 岡本 康宏）

特設サイト QR コード



## 絵本プロジェクト「はたらく活動」について

京都市老人福祉施設協議会（以下、市老協）と関係者が思いを込めて制作した、絵本「はなのちるちる」が2022年3月に完成しました。いよいよ次は、この絵本がもつメッセージを京都市内にある教育機関や保育園等を通じて、多くの子ども達に向けて発信することになりました。その際、絵本プロジェクトでは、市老協として、この絵本に込められているメッセージの意味をより強く伝える仕掛けを作れないかと考えました。それが、「はたらく活動」です。

「はたらく活動」とは、高齢者施設に入居されている方や、様々な介護サービスを利用されている方などに、絵本のメッセージである、「わたしはわたしのようになりたい」思いを実践していただくという取り組みです。具体的には、利用者の皆さまに各学校や団体に絵本を送送する際の梱包作業を担っていただきました。元々、「はたらく活動」というのは、高齢や認知症があったとしても、環境を整えればできることが沢山あり、できることはやりたい、という思いが利用者ご自身にあることを啓発すると同時に、何らかの役割が持てる活動を利用者の方々に担っていただく取組みであり、

それが「就労的活動」として全国的に広がっているものです。この活動により、利用者の皆さんは社会とのつながりが絶えることなく、社会参加の継続ができると思われています。このように、利用者の方々が役割を担うことで、個々の活躍の機会を得ることができ、この絵本のメッセージにある「わたしはわたしのようになりたい」につながるのではないかと考えます。

2022年5月に、市老協加盟施設に向けて「はたらく活動」への参加希望を呼びかけたところ、多くの施設の方が手を挙げてくださいました。5月27日には、この活動の参加施設に向けた説明会をオンラインで開催し、画面越しではありましたが、参加者の皆さまと交流をする機会になりました。その際、実際に参加される利用者の方もおられ、はたらく、ことについての意気込みを語ってくださいました。その時の皆さんのお声やお顔がイキイキとされており、発せられた言葉がとても力強かったのが印象的でした。そして何より、一緒に参加されていた施設職員の方との和やかな雰囲気が伝わり、利用者の方も職員の方々も楽しんで取り組んでくださる機会になったであろうというのが良かったと感じました。

この活動では、参加施設へ取組みの謝礼をお支払いし、利用者の方に何らかの形で還元いただきます。この謝礼があることで、利用者の方のモチベーションが上がリ、日々の生活を豊かにし、次の活動への意欲につながるのではないかと考えています。「わたしはわたしのようになりたい」を実現する活動として、今後も機会があれば、またぜひ、施設の皆さまと協力して取組めれば嬉しいなと考えています。

（人材確保・定着委員会 河本 歩美）



2022.03  
NEW OPEN

## 地域密着型総合福祉施設ふなおか



地域密着型総合福祉施設ふなおかは、老朽化が進む築46年になる本体施設の旧館部分の、特に土砂災害のリスクの高い一階部分25床の建て替えとして計画を進めてきました。土地確保等様々な曲折を経て、ご縁があつてこの度旧船岡寮の跡地に、地域密着型特養、小規模多機能や住宅型有料老人ホームを併設する地域密着型総合福祉施設としてオープンすることができました。まだ、残りの旧館部分25床の移築の課題は残っています。多くの高齢者施設で老朽化が進む中で、建て替えを進める一つの形を示すことができたのではな

建て替えから地域生活支援を目指して



## 地域密着型総合福祉施設ふなおか

## 施設概要

法人名：社会福祉法人 松光会  
 施設長/管理者：奥本喜裕  
 所在地：〒603-8302  
 京都市北区紫野花ノ坊町11番2  
 電話：075-334-6602  
 FAX：075-334-6610

## 事業内容

- ・地域密着型特別養護老人ホーム 29名（3ユニット）
- ・短期入所生活介護 10名（1ユニット）
- ・小規模多機能型居宅介護 登録定員25名、通い15名、泊り5名
- ・住宅型有料老人ホーム 8名

いかと思います。  
 ふなおかの整備は、本体施設の  
 一部移築を目的として進めてきた  
 ものですが、これまで山間部で施  
 設を運営してきた法人にとっては  
 初めての市街地での地域密着型複  
 合施設の運営です。近隣の様々な  
 団体や事業者、大学等との連携、  
 有利な交通の便等、街中の施設の  
 利点を活かして、地域を支え、地  
 域で暮らしてこられた皆様が住み  
 慣れた地域で暮らしを続けること  
 を支える地域密着型総合福祉施設  
 としての役割を果たしていきたい  
 と思っています。

# ハートメッセンジャー

## 原谷 kobushi no mi

## メンバー紹介

## 洛東園



介護の仕事を選んだ理由

祖母の入院をきっかけに。身近で介護士さんを見てカッコいいと思いました。



好きな言葉、座右の銘は？

自分の機嫌は自分でとる！



趣味・特技を教えてください。

趣味：アニメ・映画鑑賞、散歩。なかなかのジブリファンです。  
特技：断捨離



ハートメッセンジャーとして一言！

介護の魅力ややりがい、大変さを発信できればと思っています！



介護の仕事を選んだ理由

幼いころから福祉に関心があり、高校・専門学校と福祉を学びました。いま介護の仕事についてやりがいのある仕事と感じています。



好きな言葉、座右の銘は？

自分一人で石を持ち上げる気がなかったら二人がかりでも石は持ち上がらない



趣味・特技を教えてください。

景色の写真を撮ること。  
カラオケ、ライブに行くことです。



ハートメッセンジャーとして一言！

ケアを通じて生活に携わることへの楽しさや、やりがいを一人でも多くの方に知ってもらいたいです。



## きたおおじ



介護の仕事を選んだ理由

介護サービスを利用していた親戚の楽しそうな姿を見て興味をもったため



好きな言葉、座右の銘は？

今日を大切に生きる



趣味・特技を教えてください。

ギター、歌



ハートメッセンジャーとして一言！

皆さんの生活を支える縁の下の力持ちとして日々頑張っています



## 京都市ひらぎの



介護の仕事を選んだ理由

間接的ではなく、直接的に人の役に立てるから



好きな言葉、座右の銘は？

何事もやろうと思えばできる



趣味・特技を教えてください。

サッカー、ドライブ、釣り



ハートメッセンジャーとして一言！

介護の裾野を広げられるように、今後も頑張りたいです。



# 高齢者施設の お食事 紹介

紫野



## 6月のお弁当

● さつま芋もじ: 「すもじ」とは、鹿児島でちらし寿司のこと。旬の食材や、さつま揚げ、蒲鉾を用いる混ぜ寿司として親しまれている。祝い事には欠かせない季節を感じるこのでんごの一品。  
● がね: 鹿児島の特産品であるさつま芋や野菜を太めの干切りにし、衣をつけて揚げた郷土料理。

《6月は鹿児島の戦国武将 島津義弘をテーマにしたお弁当》を提供しました。

4月から新しく給食委託会社として入っていただいた株式会社グリーンハウスさんからの提案で新たに月に1度テーマのあるお弁当を提供しています。お弁当を開ける前から特別感がありご利用者さま、ご入居者さまから好評をいただいております。笑顔で蓋を開けて、一緒についている小話も読んで楽しんで下さっています。

高齢者福祉施設紫野では、給食委託会社の株式会社グリーンハウスさんに入っていたいて、日々のお食事の提供を行っております。人にとって『食へること』は栄養の充足だけではなく生活での楽しみであり、人とのコミュニケーションが生まれるきっかけにもなる大切なものです。残念ながら新型コロナウイルスの影響で、出来る範囲で行ってはおりますがユニットへ出て調理をするような行事の回数は減っていました。

普段のお食事でももちろん大切ですが、いつもと違う行事食は季節や変化を感じることができるとても大切なものと捉えています。感染予防の観点から出来なくなっただけで留まったままではなく、感染予防に配慮した上で楽しめる新たな取り組みを試行錯誤していただくと考えております。

当施設でも、感染が拡大した時期に新型コロナウイルスの発生がありました。収束に向けて脱水とドリンクやゼリーを活用したり、負担なく飲み切れる小さい容量のパックジュースを食事のお膳に付ける等の対応を致しました。行事食だけでなく、普段の食事提供においても利用者さま・ご入居者さまを食事面・栄養面から支えていけるよう厨房・施設のスタッフ一同努めていきます。

(紫野 管理栄養士 山口 智子)

